

の北東部を占める横モード雲の下層雲風はNE~Nで風は弱い。一方Cbラインの南西方の風はNWで、両気流はCbラインのところで収束している。これは第9図の解析と符合している。内藤によれば横モード雲北方の雲移動風は本来のNW風であるが、日本海中部の水温集中帯の影響で曲げられるためにN~NE風となるのだという。大変興味ある着想であると思う。

Nagata (1987) は微格子モデルを用いて帯状雲の予報実験を行った。日本海に帯状雲が現われ、日本列島に大雪を降らせた日を選び、それを前日から予想するという実験を行った。地面の境界条件として、地面の標高とその旬の海面水温を与えた(第11図)。その結果、海面水温として気候値を用いたばあいに比べてより現実に近い帯状雲の構造を再現することができた。この予報実験で得た帯状雲の断面構造は啓風丸による観測結果第9図とすこぶよく似ていた。この場合にも帯状雲の北側の気流はNWの方向からN~NEに偏倚しPK不連続線に向けて収束している(第12図)。Nagataはこの偏流は活発な対流活動を続けるCbラインに誘引されたものと解している。気流の偏倚に関する内藤と永田の見解は異なるようだが、筆者には両方が寄与しているように思われる。すなわち水温急勾配は気流偏倚のトリガーとして働き、Cb線を発達させ、その後はそれに誘引されたより厚い層の偏倚流が持続するのではあるまいか？

## 6. むすび

メソ気象を例にとって、海から気象への影響につき今考えていることの一部を紹介した。

本文の結語として私はつぎのことを述べたい。“四面を海に囲まれた日本においては、第11図が象徴しているように、海面水温と地形とはメソ気象に対して同じ程度に影響している”と。

なお気象庁海洋課では海面水温、表層水温や海流の解析図・予想図を作成してFAX放送(JMH/CDF)しているほか、「気象庁海況旬報」を毎月発行するなど海の情報幅広く一般に伝えていることを最後につけ加えておく。

## 文 献

- 荒川正一, 1965: 研究時報, **17**, 96-104.  
 肥沼寛一, 1952: 研究時報, **4**, 特別号, 1-24.  
 メソ気象調査グループ, 1988: 天気, **35**, 237-248.  
 Miyakoda, K. and A. Rosati, 1984: J.G.R., **89**, No. C4, 6533-6542.  
 内藤成規, 1987: 気象衛星センター技術報告, **15**, 79-86.  
 Nagata, M., 1987: J.M.S. Japan, **65**, 871-883.  
 小倉義光, 1984: 一般気象学, 東京大学出版会, 314 pp.  
 Ogura, Y., T. Asai and K. Dohi, 1985: J.M.S. Japan **63**, 883-900.  
 山中隆男, 1973: 研究時報, **25**, 295-304.  
 ———, 1974: 研究時報, **26**, 339-349.

## 京都大学超高層電波研究センター共同利用研究の公募のお知らせ

当センターでは、現在平成元年度後期(1年10月~2年3月)の共同利用研究課題を公募中です。

共同利用研究の中心的設備となるMUレーダーは我国最初の中層・超高層大気観測用VEF帯大型レーダーです。また、他に共同利用に供される設備としてはアイオゾンデ、二周波レーダー、ラジオゾンデ等がありま

す。

利用を希望される方は、下記に御問い合わせ下さい。締切りは平成元年8月12日です。

〒611 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学超高層電波研究センター事務室  
 TEL. 077-32-3111 内線 3330